

キーワード：地域活性化、土木遺産、共同作業

研究・地域連携活動の背景・目的

世界遺産ブームに見られるように、土木遺産は地域活性化の有用な手段となりえますが、そのためには土木遺産が持つ多様な価値や地域社会における役割を明確にしておく必要があります。学生との共同作業を通じて、土木遺産を活用した地域活性化までお手伝いします。

期待される効果などアピールポイント

土木遺産を題材にして、小中学校や自治会といった比較的コンパクトな単位で、例えば生涯学習や地域の魅力を網羅したウォーキングコースづくりなどの地域活性化活動に貢献できます。大学という特性を活かして、若者（学生）の目線を援用できることも特徴のひとつです。地域の魅力を地元の方が再発見するきっかけになり、活性化の契機となると期待しています。

研究・地域連携活動の概要紹介

【土木遺産に関する調査・研究】

土木遺産は地域の営みを今に伝える貴重な物証であり、地域づくりや地域学習などへの活用も考えられます。本研究室ではこれらの土木遺産の悉皆調査および今後の保存・活用に向けた研究を実施しています。また、その成果をきっかけに、一例として次のような活動も展開しています。

【土木遺産パネルの作成・展示】

現地調査で撮影した写真群と歴史調査による情報をとりまとめ、パネルを作成して石橋記念館や霧島市役所ロビーにて展示し、寄贈しました。

【土木遺産を核とした地域の魅力発見・発信】

本研究室ではこれまでに、霧島市隼人町平熊地区自治会や隼人歴史民俗資料館の皆様と共同で、集落内の史跡等を巡る散策コースの設定とそれに伴う廃道再生プロジェクトを実施しました。マップや案内板の作成や冊子の編集・発行による情報発信もお手伝いしています。

